

チキンフライすごーい



KSCマジッククラブ

ボランティア最前線

「すごーい、わぁー」と歓声。拍手も鳴り止みません。KSC マジッククラブ(森田明朝代表・国8)は3月13日、神戸大附属病院のはとぼっぽ保育所でプロ級の技を披露しました。森田代表のほか、田中剛(園5)、三浦捷治(国10)、大澤貞男(生13)、南形公子(福13)、古後健一(福18)さんの計6人。経験10年以上のベテランぞろいです。

午前10時、開演。0歳から5歳の園児35人と保育士さんら10人が見守ります。絵本にマジナイを掛けるとミッキーや熊のプーさんが現れます。表紙を消しゴムでこするとページは真っ白に。次は白いハンカチを拳骨の中に押し込むと下から赤いハンカチが出て来ました。赤と白のハンカチを拳骨に押し込むと、あら不思議、赤白まだら模様に変わり。園児らは目をパチクリ。

今度は細長い筒と赤いボールを持ち出します。両方の筒に1個ずつボールを入れ、まじないを掛けると、ボールが片方の筒へ瞬間移動。さらに空である筈の円筒から、ハンカチ、リボン、リンゴ、人形、花が現れました。園児らは、またまた大喜び。

トリは黒いステッキを持ち軽快にダンス。突然ステッキの中からハンカチが現れたかと思うと、一瞬でステッキが黒から赤に変化。ビックリしている

間にステッキが4色の風呂敷に変わります。間髪入れず、小さな唐傘が1つ2つと出現。度肝を抜かれた園児達の興奮は治まりません。1人が3分、各2回演じました。

ショーが終わった後、お茶のおもてなし。保育士の浅見先生らによると、「園児らがこれほど長い時間、静かに見ていたのは初めて」、「職員も童心にかえて大いに楽しんだ」と喜んでいただけたようでした。

はとぼっぽ保育所(定員50人)は、神戸大学病院の敷地内に併設。職員や学生らの子どもが対象です。浅見先生は「卒園式前に、子供達に少しでも多くの思い出を作ってあげたいと考え、ネットで検索、〈わ〉のHPを見つけた」そうです。マジック以外にお願いした木工クラブ、あんだんでは活動済み。

KSCマジッククラブの参加資格はカレッジ在校・卒業生で年会費は6,000円。現役学生が0Bとして継続するケースが多く、数多あるクラブの中で、連携がうまく行っている方とか。クラブ在籍数は80人程。月2回の例会には、常時50人は参加。神戸市内を中心のボランティア活動は年70、80回。高齢者、障害者施設、病院、幼稚園、保育所、児童館などが中心。(取材・写真=広報 知地正紘、永野知己)